



国指定重要無形民俗文化財

男鹿のナマハゲ



各地区のナマハゲ面



なまはげ柴灯まつり(平成23年度)

真山神社で二月三日に行われる
柴灯祭と伝統行事「ナマハゲ」を
組み合わせた観光行事で、境内に
焚かれた柴灯火で丸餅を焼き、神
の使者であるナマハゲに献じます。

現代舞踏家石井漠振り付けによ
る「なまはげ踊り」や「なまはげ太
鼓」も見どころです。

十二代景行天皇の
時代創建と伝えら
れる、ナマハゲゆかり
の神社。樹齢千余年
のかやの巨木や数
多くの植物が生育
するパワースポット
としても人気です。

発行／男鹿市教育委員会 第2版 平成27年9月
平成23年度 文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
お問い合わせ／男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班
〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1 TEL 0185-24-9103



なまはげ柴灯まつり(平成23年度)

真山神社で二月三日に行われる
柴灯祭と伝統行事「ナマハゲ」を
組み合わせた観光行事で、境内に
焚かれた柴灯火で丸餅を焼き、神
の使者であるナマハゲに献じます。

現代舞踏家石井漠振り付けによ
る「なまはげ踊り」や「なまはげ太
鼓」も見どころです。

発行／男鹿市教育委員会 第2版 平成27年9月
平成23年度 文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
お問い合わせ／男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班
〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1 TEL 0185-24-9103

真山神社で二月三日に行われる
柴灯祭と伝統行事「ナマハゲ」を
組み合わせた観光行事で、境内に
焚かれた柴灯火で丸餅を焼き、神
の使者であるナマハゲに献じます。

現代舞踏家石井漠振り付けによ
る「なまはげ踊り」や「なまはげ太
鼓」も見どころです。

発行／男鹿市教育委員会 第2版 平成27年9月
平成23年度 文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業
お問い合わせ／男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班
〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1 TEL 0185-24-9103

男鹿のナマハゲ

大晦日の晩、それぞれの集落の青年たちがナマハゲに扮して、「泣く子はいねがー、親の言うこと聞かね子はいねがー」「この家の嫁は早起きするがー」などと大声で叫びながら地域の家々を巡ります。男鹿の人々にとってナマハゲは、怠け心を戒め、無病息災・田畠の実り・山の幸・海の幸をもたらす、年の節目にやってくる来訪神です。ナマハゲをを迎える家では昔から伝わる作法により料理や酒を準備して丁重にもなします。

男鹿市内の「ナマハゲ行事」は、かつて小正月に行われていましたが、現在は約五十の集落で十二月三十一日の大晦日に行われています。

昭和五十三年「男鹿のナマハゲ」として国重要無形民俗文化財に指定されました。



出刃庖丁・御幣 ◎ 「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣(ごへい)」を付けた杖を持つて巡ります。



面 ◎ 木の皮、木の彫刻、ザルに紙を貼ったもの、紙粘土など様々な素材が使われています。最近はプラスチック製や地元の木彫師による面も多く使われるようになります。



ケデ ◎ ワラ製のミノ状にした衣装。面とともに神に扮する象徴的な衣装です。ケダシ、ケンデ、ケラミノなどともいいます。



ハバキ ◎ ワラで編んだ縫(すね)あて。これを見るのはわらぐつ ◎ 雪中、遠くから来るためのワラ製の靴。



他所から来ることを意味します。



わらぐつ ◎ 雪中、遠くから来ることを意味します。



「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣(ごへい)」を付けた杖を持つて巡ります。



「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣(ごへい)」を付けた杖を持つて巡ります。



「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣(ごへい)」を付けた杖を持つて巡ります。



「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣(ごへい)」を付けた杖を持つて巡ります。



「ナモミ」を剥ぎ落とすための「出刃庖丁」や地域によっては、神のしるしとしての「御幣(ごへい)」を付けた杖を持つて巡ります。

ナマハゲ伝説

◆漢の武帝説

中国の漢の時代、武帝は不老不死の藁草を求め五匹のコウモリを従えて男鹿にやってきた。五匹のコウモリは鬼に変身して武帝のために働いたが、ある日二日だけ休みを下さい」と武帝に頼み、正月十五日だけの休みをもらいましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、人々をまわり祈祷を行いましたが、その凄まじい修驗者の姿をナマハゲとして考えたという説です。

◆漂流異邦人説

男鹿の海岸に漂流してきた異國の人々は、村人にとつてはその姿や言語がまさに「鬼」のように見えました。ナマハゲはその漂流異邦人であるという説もあります。

◆山の神説

遠く海上から男鹿を望むと、日本海に浮かぶ山のように見えた、その山には村人の生活を守る「山の神」が鎮座するところとして畏敬され、山神の使者がナマハゲであるという説もあります。

◆修驗者説

男鹿の本山・真山は古くから修驗道の靈場でした。時々、修驗者は山伏の修行姿で村里に下りて、